

あしたの畑

「あしたの畑」は、国内外で活躍する表現者たちが地域と密接に連携し、分野を超え、食×暮らし×アートを核としたイノベーションを共創する文化芸術による集落構想です。

活動拠点である京都北部・丹後町は、日本最古の水晶玉工房跡や製鉄所遺跡、日本海三大古墳が位置し、豊かな食文化や染織文化、ユネスコジオパークに指定される美しい自然が残っています。それら豊かな歴史と地域性からインスピレーションを受けて実施する本事業に参加する人々が、美しい風土、豊かな食文化、周囲の文化資源の魅力とともに体験することで、美しい景色に出会える日本という風土が持つ豊かさ、地域文化を再認識し、人々の豊かな心を育む機会の提供を目指します。

今後5年、10年と継続し、事業としての自走化を目指しながら、本事業の活動を食と空間、制作される仕器や器にいたるまで、土地が育むこれからの新しい価値観として世界に広く紹介することで、それらアート作品を目的に世界から人が訪れ、都会の喧騒から離れてゆっくりと滞在し、繰り返し訪れて共に集落を作り上げていくような、文化芸術による地域活性化の新たな羅針盤となることを目指します。

「あしたの畑」設立メンバー

- 嘉戸浩 | 唐紙師／かみ添
- 坂本健 | 料理人／cenci
- 佐藤聡 | ガラス作家／PONTE
- 中川周士 | 木工作家／中川木工芸
- 新里明士 | 陶磁器作家
- 西沢立衛 | 建築家／西沢立衛建築設計事務所、SANAA
- 森川昇 | 写真家／f64

コラボレーター

- 吉岡幸宣、吉岡恭子 | 料理人／縄屋



「あしたの畑」ロゴデザイン
杉本博司

あしたの畑事務局 | NPO法人TOMORROW

www.tomorrow-jp.org

間人スタジオ

間人スタジオは、伊勢神宮のように20年かけて芸術にまつわる知識と技術と情熱を次世代へ受け継いでいくすべての営みを具現化する家であり、「あしたの畑」の拠点です。

太古の昔より変わらぬ日本海を臨む地に100年少し前に建てられた杉板の2階建ての家を借り受け、生活の器を作り出す工芸作家たちが、大きなスケール、建材に挑む試みの結晶です。既製品の中から選ぶのではなく、その土地の風土に適したものを、全て一から考えて作る。かつて京都で、瓦職人の初代長次郎が千利休との対話から茶碗作りに挑んだように、日々素材に向き合い、自らの手でものづくりをしている工芸作家たちがだからこそ出てくる発想で、新しい「建築」が生まれませんか？

地域の人たちと食・工芸・アート・建築・デザインの才能に優れた先達者たちがこの家の改修をそれぞれの技量で20代の世界観を全力で表現する、このプロセスを通して現場での体験が学びの場となり、地域に溶け込み、歴史の一部となっていく、ひいては芸術が生活の一部となり、社会の中で経済活動ともリンクしながら循環していくことで、人にとって美しく生きることの意味を問いかける場です。

改修プロセスと作品 | www.tomorrowfield.org/taizastudio-exhibition

現在進行中のプロジェクト

昨年夏（7月22日ー8月21日）に開催した企画展「ECHO あしたの畑ー丹後・城崎」から1年、アーティスト、テレジータ・フェルナンデス、食にcenci、縄屋、工芸では中川周士などととともに、この秋、食、アート、工芸、建築のお披露目を目指して各種プロジェクトを進行中です。

ECHO | Howling Hearts

TOMORROWは、集落構想“あしたの畑”において、本来芸術の役割であろう心田を耕す「境界のない芸術を体感する広野」に轟く心の声=ECHOをメインテーマとし、毎年1回、食とアートと地域が連携する祭典を開催します。地域住民と国内外から丹後を訪れる人々の心に響き、活動を担う人材の成長の場となり、上質な芸術と恵まれた自然環境により次世代を担う子どもたちの感性を恒常的に養う場となることを胸に展開する試みです。

確実に食は、アートは、大人になる前の10数年間に大切な役割を果たします。そしてそれを育むコミュニティの存在が市町村を形成することを考えると、辺境であれ、都会であれ、日本に居住する上で継続して果たすことの重要性を認識し、2023年（令和5年）は今とこれからを生きる子どもたちを想い、食、アート、建築、工芸を軸に、様々な人が訪れるきっか

けとなるプログラムを実現します。このプログラムは一過性のイベントとは異なり、今後5年、10年と継続し、事業としての自走を目指すことを想定しながら、地域とひいては世界から必要とされる持続可能なアートプロジェクトとして成長することを目標として計画するものです。

ことばにできないから作る、というのは言い訳に聞こえます。アイデアは、蜃気楼ではなく、言（こと）は事（こと）となる現実のはずです。創作物が、心に届き、それぞれの国、文化、風習に置き換え、それぞれの言語という記号で伝達される価値を有することを目標に、今を生きる国内外の表現者と次世代の作り手が切磋琢磨する実践の場となることにも挑戦します。

タイトル	ECHO あしたの畑ー丹後・城崎
会期	2023年10月7日（土）ー11月26日（日）＊休場日：月、火、水曜日
開場時間	10:00 - 16:00（間人スタジオ、竹野神社）
会場	丹後：間人スタジオ、竹野・斎宮神社、京丹後市立古代の里資料館、道の駅てんきてんき丹後 城崎：城崎温泉三木屋
予約受付	2023年4月以降詳細発表
参加作家	テキスタイル 安東陽子
*五十音順	書 柿沼康二
	紙 嘉戸浩（かみ添）
	陶芸（陶器） 桑田卓郎
	料理 坂本健（cenci）・吉岡幸宣（縄屋）
	ガラス 佐藤聡（PONTE）
	現代美術（彫刻） 須田悦弘
	デザイン 田中義久（Centre）
	木工芸 中川周士（中川木工芸）
	陶芸（磁器） 新里明士
	建築 西沢立衛
	本 幅允孝（BACH）
	現代美術（インスタレーション） テレジータ・フェルナンデス
	ファッション 前田征紀（COSMIC WONDER）
	現代美術（サウンド・インスタレーション） サムソン・ヤン

この資料についてお問い合わせ先

NPO法人TOMORROW（担当：岡本）E-mail: info@tomorrow-jp.org

www.tomorrowfield.org